

Function and Structure of Carboxypeptidase gp180

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kuroki, Kazuyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00049900

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



カルボキシペプチダーゼ gp180 の機能と構造

課題番号 (05808056)

平成6年度科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書

平成7年3月

研究代表者 黒木 和之
(金沢大学 がん研究所)

KAKEN

1994

45

はしがき

研究組織

研究代表者： 黒木 和之
(金沢大学 がん研究所)

研究経費：

平成5年度	900千円
平成6年度	<u>700千円</u>
計	1600千円



8000-37174-X

金沢大学附属図書館

研究発表

1. Kuroki, K., Cheung, R., Marion, P. I., and Ganem, D. (1994).
A cell surface protein that binds avian hepatitis B virus particles.
J. Virol., 68, 2091-2096.
2. Ishikawa, T., Kuroki, K., Lenhoff, R., Summers, J. and Ganem, D. (1994).
Analysis of the binding of a host cell surface glycoprotein to the preS protein of duck hepatitis B virus.
Virology, 202, 1061-1064.
3. Kuroki, K., Eng, F., Ishikawa, T., Turck, C., Harada, F. and Ganem, D.
gp180, a host cell glycoprotein that binds duck hepatitis B virus particles, is encoded a member of the carboxypeptidase gene family. (submitted for publication)

研究目的

カルボキシペプチダーゼは、メタロプロテアーゼに分類され、標的タンパク質の COOH 末端の塩基性アミノ酸 (Arg, Lys) を切断することにより、そのタンパク質の maturation や activation に機能する。したがって、ホルモンなど目的タンパク質の生理活性、調節機構を知る上で、たいへん重要な機能酵素である。

我々は、ダック B 型肝炎ウイルスの感染機構を研究する過程で、ダック肝細胞より分子量 18 万の宿主糖タンパク質 (gp180) を発見した。最近、我々は、gp180 N 末端領域を欠くが、C 末端領域約 7 kb の cDNA を得ることができたので、その塩基配列決定、アミノ酸一次構造の推定、ホモロジー検索等を行ってきた。その結果、この gp180 がこれまでに報告されているカルボキシペプチダーゼと高いホモロジーがあることからこの酵素群に分類されると考えている。しかし、既知カルボキシペプチダーゼの全ドメインが 3 個タンデムに gp180 上に並んでいるなど、ユニークなアミノ酸一次構造、遺伝子構造をとっていることがわかった。

これら gp180 の構造上の特徴は、(1) 合目的に、3 種のカルボキシペプチダーゼを一つのペプチドに持つことで協調的に発現される必然性がある、(2) gp180 は前駆体であり、3 番目のカルボキシペプチダーゼは COOH 末端近くの 21 アミノ酸からなる疎水性領域を介して膜に結合し機能するが、proteolytic cleavage によって 1、2 番目のカルボキシペプチダーゼはプラズマあるいはオルガネラなど機能するための特異的な局在性を持って分布するようになる、など生化学、分子生物学上たいへん意味のある仮説を我々に提示している。

本研究の目的は、新発見のカルボキシペプチダーゼ gp180 の機能とその構造の特異性を理解すること、ウイルスと宿主プロテアーゼとの関係について、また生物種間の普遍性について論ずることである。

研究成果

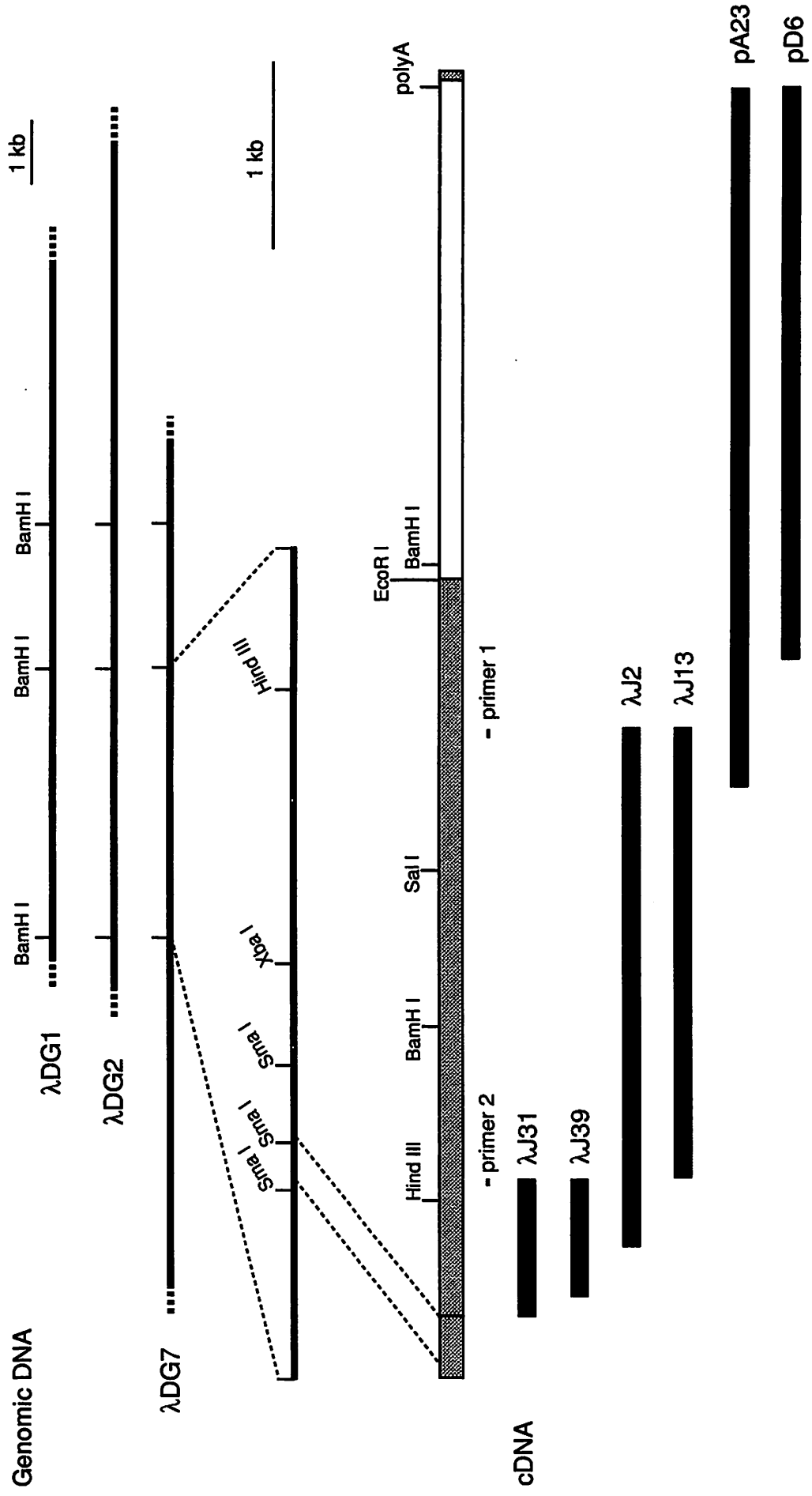
gp180 の全アミノ酸一次構造の決定。

新規カルボキシペプチダーゼ gp180 の未決定の N 末端領域のアミノ酸一次構造を知るため、まず 5' RACE 法により gp180 の 5' cDNA を単離することを試みた。しかし、gp180 の 5' cDNA を得ることができなかつたので、つぎに、我々は、gp180 cDNA をプローブにダック肝臓 genomic DNA の EMBL3 ライブラリイから gp180 5' 部分の単離を試みた (図 1)。単離したゲノム DNA の解析から、gp180 の全アミノ酸一次構造を推定することができた。gp180 の N 末端は、ヒトカルボキシペプチダーゼ H とのホモロジーから推定した (図 4)。

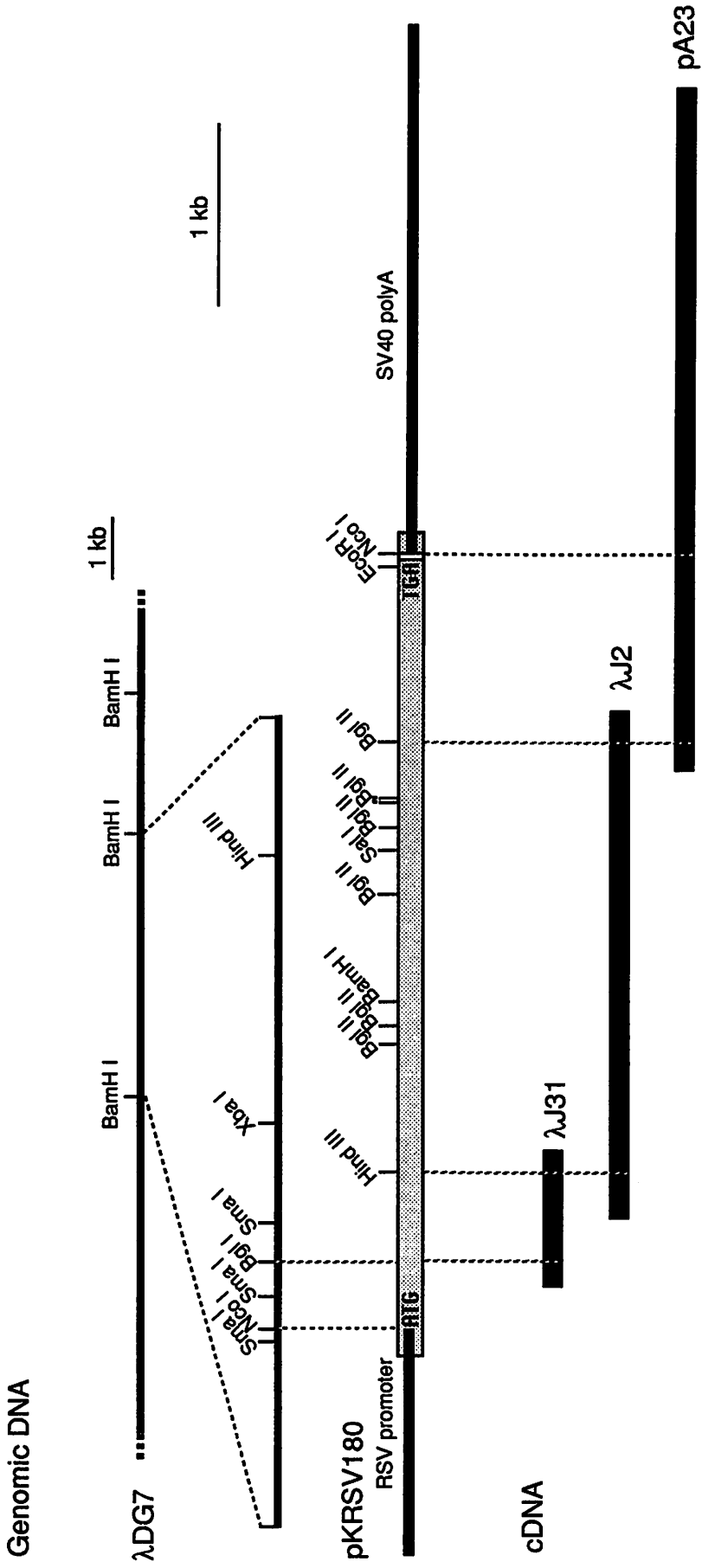
gp180 は、分子量 153,498 で、1389 個のアミノ酸からなり、アミノ末端に putative signal peptide、カルボキシ末端より 60 残基上流に 21 個のアミノ酸からなる疎水性領域を持つ膜糖蛋白質であり、13 個の potential N-linked glycosylation sites がある (図 2、図 3)。gp180 は、ユニークなことに全アミノ酸一次構造を 3 分割するようにカルボキシペプチダーゼドメイン (A、B 及び C) を配列していることがわかった (図 4)。ヒトカルボキシペプチダーゼ H とのホモロジーは、ドメイン A、B 及び C との間にそれぞれ 39%、43% 及び 29% あった。

完全長 gp180 DNA の構築。

gp180 の機能解析を行うため、得られた gp180 cDNA 及びゲノム DNA 断片から完全長の gp180 DNA を構築し、これを SV40 early promoter の下流に挿入した発現プラスミッド (pSV-gp180) 及び RSV promoter の下流に挿入した発現プラスミッド (pKRSV180) を作成した (図 3)。完全な gp180 DNA であることは、pSV-gp180 を COS7 細胞に導入しその発現をみることで確認した。



(図 1) gp180 cDNA 及び genomic DNA のクローニング



(图 3) 完全長 gp180 DNA の構築。

HUMAN, CBPH	1	MAGRGSSA	L	ALCGALAACG	WILCAEAQEP	GAFAAAGMRER	RR	QOE-IGI	SEFYRYFEL	REALVVS-VML	QCTA	ISRI	VT	78
gp180, A	1	MAGAARGILW	AALSICLLPE	PLRAAHIKKA	EANAAGGGG	VAQVEPPAT	TS	HQAVQP	DERHHSFSDM	EIFLRR-YAN	EYPS	IRL	YS	73
gp180, B	490													537
gp180, C	907		FETLIKD	LSAEN	LELL						SEFLRG-LYM	NYPH	INLTS	961
HUMAN, CBPH	79	VGRSFEGR	EL	MIELSDNH	---	---			VHEPGEPEFK	VI	GNM	HGNEA	FLA	128
gp180, A	74	IGRSVEGR	EL	WMLRTAGLP	ELPEARQDGE	KKKKEEEEE	EE	EEEGEGGC	GALPCRFQVK	LV	GNM	HGNEP	LR	153
gp180, B	538	VCKSVETREL	YAMETSDNF	---	---	---			IFHAGEPEFK	VI	GNM	HGNEP	LR	587
gp180, C	962	LGOSVEFR	ROI	WSEIISNKH	---	---			HSEFEFEKIR	FV	AGI	HGNAP	VGH	1011
HUMAN, CBPH	129	OYLQNEVQK	NETIVVLIHS	TRIHIMPSLN	P	---			ELKDWHVGRS	NA	GI	DLNRN	F	200
gp180, A	154	DELVRGWAG	DERLGRILNT	IDLILIPSLN	P	DCGGGGGGGC	---		EGGEGPGCRE	NS	RCR	DLNRS	F	233
gp180, B	588	EYLQKNFGTD	PE-VTDLVOS	TRIHIMPSMN	P	DCGGGGGGGC	---		EGGEGPGCRE	NS	RCR	DLNRS	F	655
gp180, C	1012	EFLQMNVTKK	NSAVTKLIDR	TRIHIMPSLN	P	DCGGGGGGGC	---		EGGEGPGCRE	NS	RCR	DLNRS	F	1079
HUMAN, CBPH	201	NEKEGGPNNH	LLKNMKKIVD	QNTKLAPETK	AVT-HWIMDI	PFVLSANLHG	---		GLLVANYPYD	ETR	SG	SAHE-	Y	278
gp180, A	234	DLEPV	---	PEVR	ALL-AMRRRN	KH	LSANLHG	---	GSVVAASYPYD	DS	P	THRPTGV	Y	291
gp180, B	656	PPQ	---	PETL	AVM-SMLKTY	PFVLSANLHG	---		GLLVANYPYD	D	DE	Q	IAI	709
gp180, C	1080	TRE	---	PETK	AIENILILKQ	DELSVALDGC	---		GLLVANYPYD	---	---	---	---	1128
HUMAN, CBPH	279	QSLARAYSSF	NFAMSDPNRF	PCRKNIDJSS	FVDCIINGGA	WYVSPGGMOD	---		ENYISSNCFE	IT	VEL	SCBKE	---	358
gp180, A	292	KYLAKAVASH	HEIMR-TGKE	NCP-GEEGET	FODCIINGAQ	WYVSPGGMOD	---		YNYVWANCFE	LT	TEL	SOCKY	---	369
gp180, B	710	QLALSYSKE	NKKMYQ-GS	CKDLYPTEY	EPHCIIINGAQ	WYVSPGGMOD	---		WNYINTNCFE	VH	IEL	SOVKY	---	787
gp180, C	1129	KHLASVYVANN	HETLM-HLGQH	GCPNKSDI-N	IPGGVTRGSE	WF	SHI	SSMKD	ESVTFGHCFE	LT	VY	T	SCCYE	1206
HUMAN, CBPH	359	EDNKNLSI	SY	LEQIHRGVKG	FVRD-LQGNP	IANATISVFG	---		GDYWRLLIIPG	NY	KI	TASAPG	---	436
gp180, A	370	ENNRPSLITF	TEKVHIGVKG	FVRDAITGAG	LENATIVVAG	IAENIITACKE	---		GDYWRLLIIPG	TY	NV	TAVVVG	---	449
gp180, B	788	EQNRSLLOF	IKQVHRGLWG	FVLDATDGRG	ILNATISVAD	IN	EP	VIITMKI	GDYWRLLIIPG	TY	KV	TASARG	---	866
gp180, C	1207	ADHRKSLISM	QVEVEKGVHG	FVOD-KSGKA	ISKATIVLNE	-GLRMYTKEG	---		GYFHVLLIIFG	LH	NI	NI	ADG	1283
HUMAN, CBPH	437	VPSYSPAGV	-DFFLESFSE	RKEEKEEELM	EMWKMSEITD	NF	476							
gp180, A	450	VKEADAVVV	-DFSLQPTVV	APDPNLITQFT	ATPAPPSILIT	PS	489							
gp180, B	867	VDSKGGVQV	-NFTLSRTDA	KVEEGGVVPL	NTPDTSDPNE	KE	906							
gp180, C	1284	VRHDA PSSVF	I VEDM ENRIF	GLPRELVVTV	AGASVSALV	TA	1325							

(図 4) gp180 ドメイン A、B 及び C と ヒト カルボキシ ペプチダーゼ H と の ホモロジ ー アライメント。

box は、同一アミノ酸配列。星印は、Zn binding site。白丸は、substrate binding site。黒丸は、catalytic site。ヒトカルボキシペプチダーゼHのアミノ酸配列は、Manser, E. et al. Biochem. J., 267, 517-525 (1990)より引用。

gp180 は細胞表面に存在する。

gp180 が細胞表面に局在することを確認するため、pSV-gp180 DNAをtransfection 後、2日間培養した COS7 細胞表面の蛋白質は、NHS-LC-Biotin でラベルした。これら細胞を可溶化した後、gp180 を DHBVpreS-GST と結合させたのち Glutathione-sepharose で回収した。Biotin ラベルされた gp180 は、SDS-PAGE 後 nitrocellulose membrane に transfer し、Avidin-HRP、Enhanced Chemiluminescence 法で検出した。COS7 細胞で発現したgp180 は、全体のおよそ10% が細胞表面に存在することがわかった (図5)。

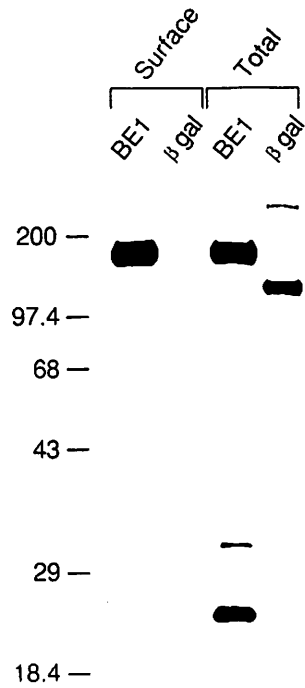
DHBVpreS は gp180 の3番目のカルボキシペプチダーゼドメインと結合する。

DHBVpreS の gp180 上の結合領域を決定するため、gp180 の各種欠失変異体と DHBVpreS との binding assay を行った。

gp180 の各種欠失変異体は、各種制限酵素を用いて特定部分を欠失させ、エピトープタグの HBV エンベロープ蛋白質にこれらを結合させて作成した。DHBVpreS は gp180 の3番目のカルボキシペプチダーゼドメインと結合することがわかった(図6)。

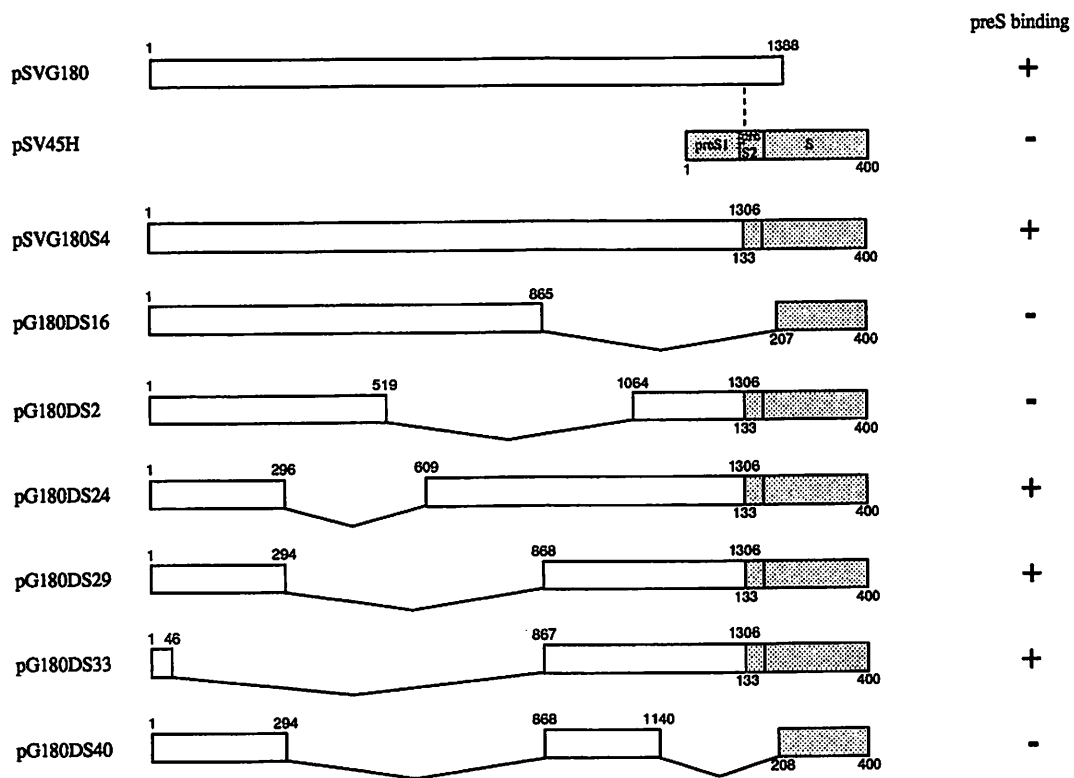
gp180 発現細胞株の樹立。

ニワトリ肝癌由来の細胞株 LMH は、DHBV DNA をトランスフェクションすると効率よく DHBV ウィルスを増殖する細胞である。しかし、DHBV は感染しない。そこで我々は、DHBV 感染における gp180 の機能を探るため、まず LMH 細胞に pKRSV180 プラスミッド DNA をtransfection した後、G418 selection により pKRSV180 導入細胞株を樹立した。樹立した細胞株は全て、single plasmid が host genomic DNA にintegration していた (図7)。これら細胞株のうち、gp180 の発現は、LMHG13、15、16及び35に認められたが、LMHG11及び12では検出されなかった。



(図 5) gp180 は細胞表面に局在する。

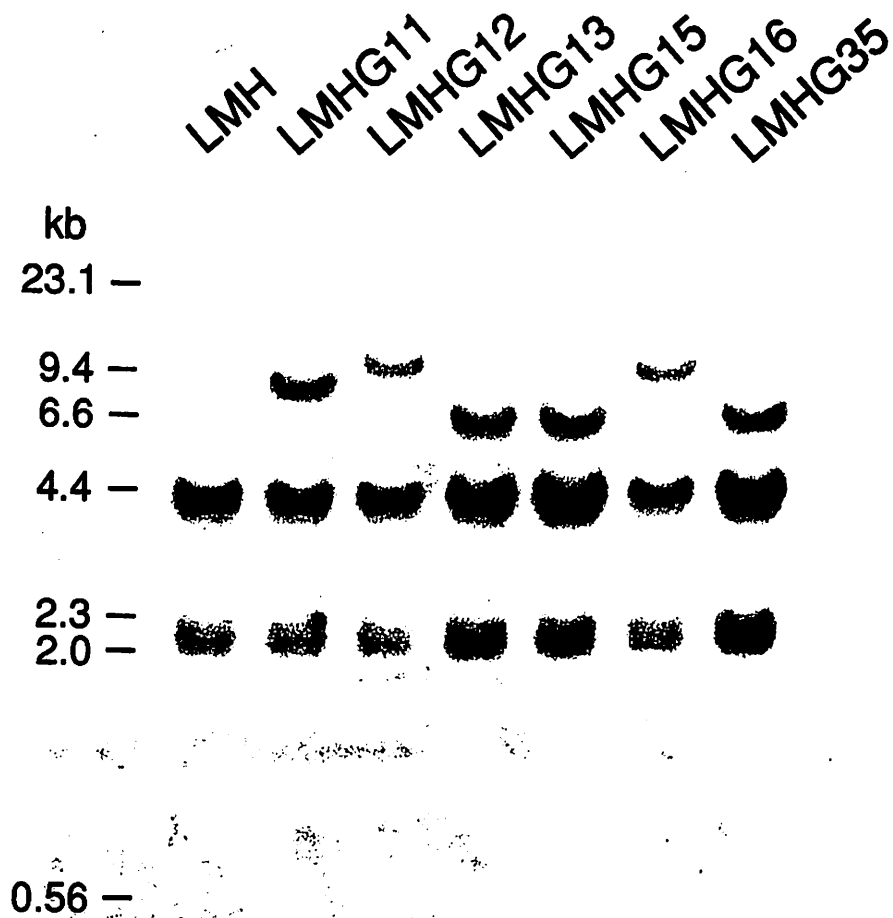
pSV-gp180 と β galactosidase 遺伝子を COS7 細胞に導入、発現の後、細胞表面の蛋白質を NHS-LC-Biotin で標識した。gp180 と β galactosidase はそれぞれ BE1 (GST-DHBVpreS fusion protein)、抗 β gal 抗体で単離した。ビオチン化蛋白質は、Avidin-HRP/ECL (Amersham) で検出した。これらの蛋白質が導入後COS7細胞で発現していることは、細胞を可溶化後、全蛋白質をビオチン化することにより確認した (右2レーン)。



(図 6) DHBV エンベロープ蛋白質 preS は、gp180 のドメイン C と結合する。

(a) 作成した各種 gp180 欠失変異体。pSVG180 は SV40 early promoter の下流に wild type の gp180 をもつ。gp180 欠失変異体には tag として C 末側に pSV45H の HBV エンベロープ蛋白質を融合した。

(b) 各種 gp180 欠失変異体と DHBV preS の binding assay。COS7 細胞に導入し 35S メチオニンでラベルした gp180 欠失変異体と GST-DHBV preS 融合蛋白質の結合能を調べた。これら変異体が COS7 細胞内で発現していることは、抗 HBs 抗体によって確認した。



(図 7) gp180 発現細胞株の樹立。

G418 耐性細胞株の genomic DNA を Hind III digestion 後サザンプロット。Probe は ^{32}P -dCTP でラベルした gp180 cDNA の 2.5kb BamHI fragment。得られた細胞株には、シングルコピーの pKRSV180 が組み込まれていた。4.4 kb 以下の複数のバンドは host 由来。

DHBV は gp180 発現細胞株に吸着する。

宿主細胞への DHBV の感染過程で gp180 がどのように関わっているのかを知るために、まず gp180 発現細胞を用いて DHBV 粒子の吸着実験を行った。

DHBV 粒子は、gp180 発現細胞にのみよく吸着することがわかった (図 8)。このことから、gp180 は DHBV 感染の初期、細胞表面へのウイルス粒子の吸着に関わっているものと思われる。

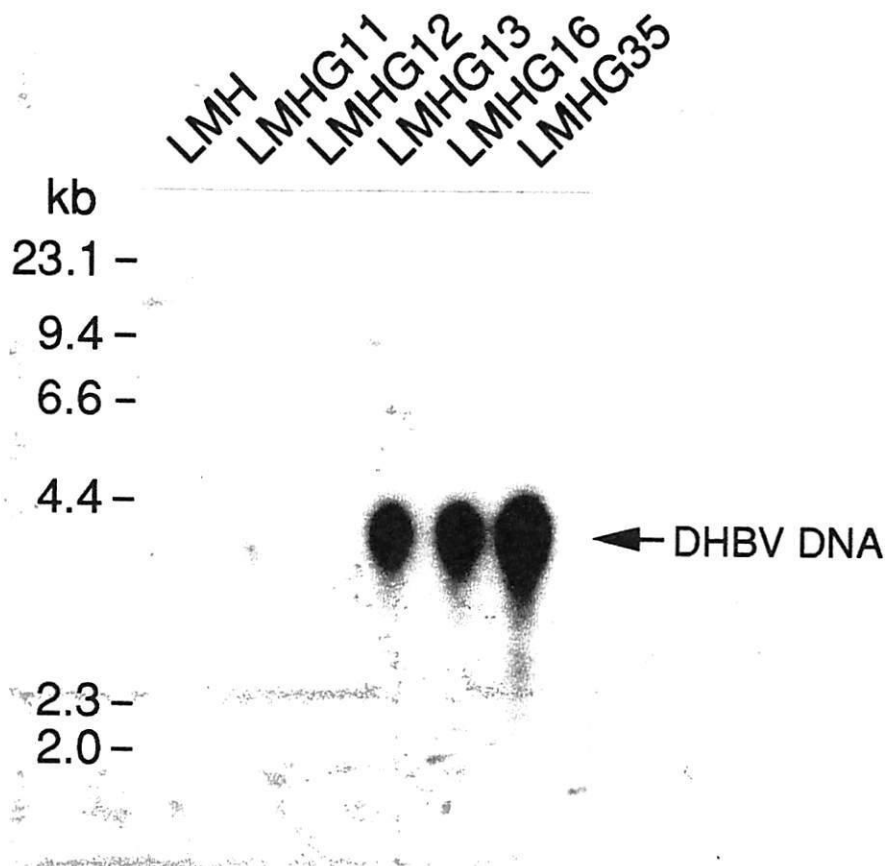
DHBV は上記の gp180 発現細胞株で増殖しない。

さらに我々は、これら gp180 発現細胞での DHBV 増殖の可能性について検討した。LMHG35 細胞を対象に、種々の培養条件下で DHBV 感染実験を行った。しかし、DHBV の増殖は、培養 14 日後も認められなかった (図 9)。LMH 細胞には、DHBV 感染成立に必要な gp180 以外の因子が欠けているものと思われる。

抗 gp180 抗体はニワトリ gp180 を認識する。

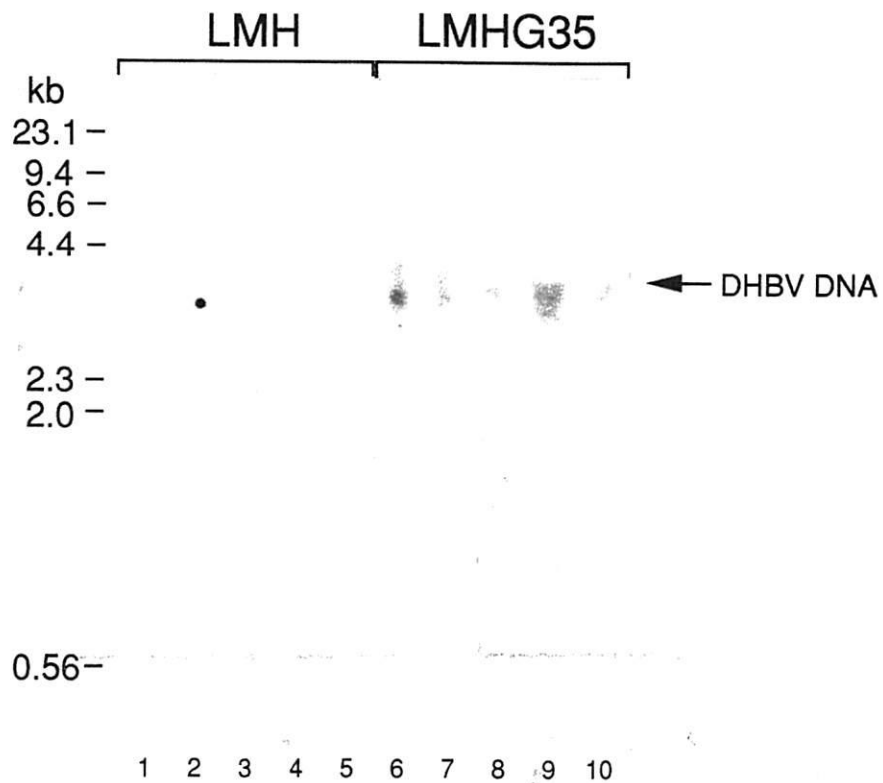
DHBV 感染過程における gp180 の機能を、また、gp180 の細胞局在、生物種分布明かにする上で、抗 gp180 抗体による解析は重要である。

DHBVpreS は gp180 の 3 番目のカルボキシペプチダーゼドメインに結合する (図 6) ので、この領域を GST との融合蛋白質として大量に得、それを抗原としてラビット及びマウスを用い抗 gp180 抗体を作成した。まだ DHBVpreS と gp180 の結合を阻害するような中和抗体は得られていないが、今回得られた抗 gp180 モノクローナル抗体を用いることによって、LMH 細胞にも gp180 が存在することを示唆する結果が得られた (図 10 a)。このニワトリ gp180 は、DHBVpreS と結合しない (図 10 b) ことから、DHBV の宿主特異性は、gp180 が担っているものと思われる。gp180 のカルボキシペプチダーゼドメインが triplicate したユニークな構造は、ダックに特異的なものではなく生物種を越えて広く存在しているように思われる。また、抗 gp180 抗体が、分子量 18 万の gp180 分子のみを認識することから、gp180 は processing を受けずに mature form として機能しているものと思われる。



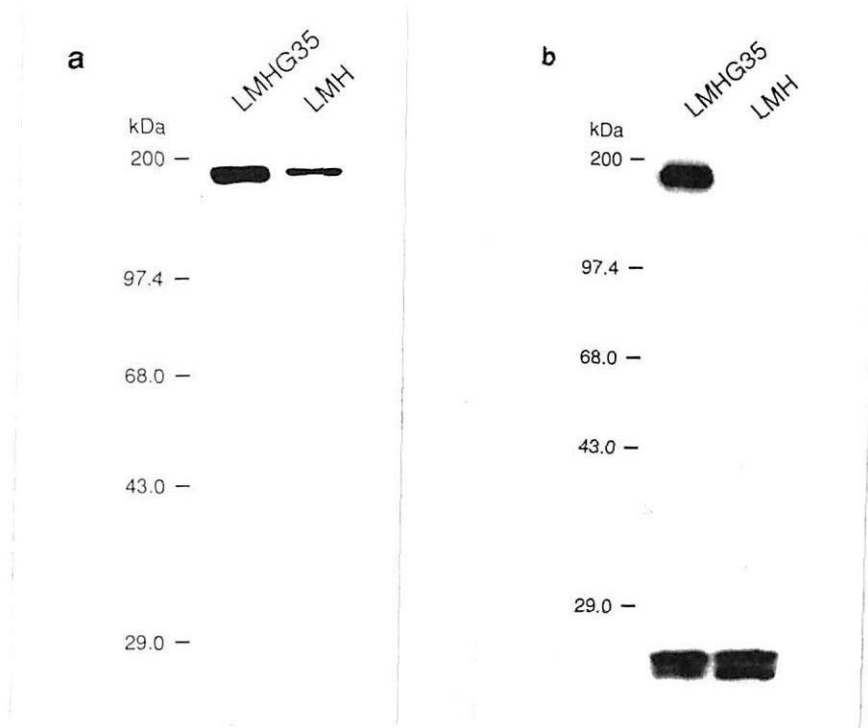
(図 8) DHBV 粒子は gp180 発現細胞によく吸着する。

10^6 の細胞を 5×10^6 DHBV 存在下、37度で16時間培養後、細胞をトリプシン処理により回収。その total DNA をサザンプロット。Probe は ^3H -dCTP でラベルした 3.2 kb DHBV DNA を用いた。



(図 9) LMHG35細胞では DHBV の感染が成立しない。

10^6 の細胞を 5×10^6 DHBV 存在下、37度で16時間培養した後、DHBV フリーの培養液に交換。以降2日おきに培養液を交換した。DHBV フリーの培養液に交換してから、0日 (レーン1、6)、3日 (2、7)、6日 (3、8)、10日 (4、9)、14日 (5、10) 後、細胞をトリプシン処理により回収。その total DNA をサザンブロット。Probe は ^{32}P -dCTP でラベルした 3.2 kb DHBV DNA。DHBV の増殖は、LMHG35 細胞でも認められなかった。



(図 10) 抗 gp180 モノクローナル抗体 (1D11) はニワトリの gp180 を認識する。

(a) LMH 及び LMHG35 細胞の全蛋白質を SDS-PAGE で分離した後、PVDF メンブランにトランスファー。gp180 の検出は、HRP-conjugated anti-mouse IgG antibodies / enhanced chemiluminescence method で行った。

(b) gp180 と DHBV preS の binding assay。³⁵Sメチオニンでメタボリカルにラベルした gp180 と GST-DHBV preS 融合蛋白質 (BE1) の結合能を調べた。LMH 細胞に検出されたニワトリ gp180 (a) は、DHBV preS と結合しない。